

文芸欄

俳句

投稿 九九句 掲載 八六句

紅梅会(東) サーフインの神風の波 東京五輪 安田早智子 秋の道 阿部美恵子 観月会(西) 姿師を語る 石田 朋子

山門をくぐりてしばし 萩原扶喜子 サッカーの白熱の夜や 手に汗を 武山比佐美 地蔵尊指の先まで良夜 かな 平田 恵

短歌

花山短歌会(北) 子を四人育てし事に尽るなり落葉に埋れる木 造の家 古林 保子 イベントの中止延期の 相次ぐにまたもキャンセルヘルパーの予約 水越 敦子

名月や雲の間に間にのぞかせて 山田しづ子 秋色のセーター揃う商店街 深沢 清子 篠原句会(灘) 温め酒娘二人の誕生日 木原 愛子

庭に水残る蚊の来て弱く刺す 清水 昭子 波間より淡路観音惜しむ秋 仁居津 勲 老妻が酒の相手の月見かな 村上 弥廣

寒い朝バス待つ人は皆無口スマホ見つめて指だけが動く (中)あさとし 日焼した腕を捲れば穏やかにチクッとするとインフルエンザ (中)水口 敏子

ベタ凧の浮木の波紋や 秋の暮 和志 一人居は気ままに過ぎし栗ごぼん 芳子 栗ごぼんむく妻の若かりし 哲男

虫の声合わぬ輪唱無人 山田 朝子 一人居の夕餉も楽し鯛大根 栗野 富江 故郷の匂ひ親しき今年 藤井 歌子

いつも行く神社への道 秋色にコスモス染めてあかしるピンク (西)古西 澄子 「マツタケ」を籠いッパイで伯父が来る懐かしき夢にふるさと想う (西)濱頭ミノル

高原ささゆり会(北) 吾亦紅手の温もりの残る肩 てる子 遠い日のおぼのえくぼや銀木犀 南 久美子

裸木の隙間に遠く我が閑居 若林 節子 花山会(北) 吾が背丈上回りたる花 薄 林 巳三子

お金よりの場所とするカード財布中 笹岡 淑子 今日を脱ぎ明日は明日の衣着で 杉尾 悦子

ひよどり台句会(北) 先見えぬ未曾有の世界 秋来たる 塩見 光子 ふるりのさば鮎くるむ柿落葉 田中 弘子

星流る丹生山の露天風呂 松本 洋子 静かに糸口なくて秋暑し 金行 隆

穴太積麟がくるか秋の城 かほう 八年に一度の中秋満月 だ 三茶 紅葉を求めて二人旅に出る ヨシ

野に紅き帯ほどけしや 曼珠沙華 森本 珠実 草むらに二本可憐な彼岸花 山本スミ子

草の花小瓶に挿して風呼びぬ 松下修二郎 梨裂いてあふるる果汁 すすりけり 高見希豫子

また来たか夜に冷めたき冬布団(東)増田 芳之 理解不可何度読んでも取説くん (北)かんいち 冬野菜発芽そろってキモチヨカ(北)北野 利一

秋澄むや傘寿願いて延暦寺 (灘)都倉 知子 満月やほほえんでいる歩こうよ (灘)山上 幸子

月が丘むつみ会(西) 清秋や高きもちの木色付く美 藤森 勝子 桶揺らす雨催い吹き抜けて 川上 富範

真夏日の次の日冬日芋を掘る (西)松井 文子 真夏の日の次の日冬日芋を掘る (西)松井 文子

秋澄むや傘寿願いて延暦寺 (灘)都倉 知子 満月やほほえんでいる歩こうよ (灘)山上 幸子

ビル壁を染めゆく夕日天高し (垂)大上 昭敏 山寺の鐘の音が降る里の秋 (垂)藤田 恵子

あともがき あれほど騒がれたコロナ禍。発症者の数も激減しました。ほんとうにこれで終わったのでしょうか。もう少しマスクや手洗い、3密などに気をつけたいほうが良いのではないのでしょうか。

「とっておきの作品」募集
会員の皆様から、絵はがき&色紙絵を募集しています。必要事項を記入したものを同封の上、作品をお寄せください。

とっておきの作品
天が岡シニア倶楽部
古南 みち子

太閤プラン 15,800円
多彩な会席プラン!
※1室あたりのご利用人数、利用日、お部屋タイプにより料金異なります。

かんぽの宿 有馬
兵庫県神戸市北區有馬町1617-1
078-904-0951

かんぽの宿
だれでも!!泊まれる。
各種宿泊プランございます